

目次

まえがき 3

第1章

「常識」のズレについて

「まともな人」とはどういう人か 22

河合隼雄氏、橋本治氏、神津かななさん……………22

いまの日本は中高年の男子に問題が生じている……………25

『君のひとみは一〇〇〇〇ボルト』がまともな日本語か……………27

歌詞の意味より特攻隊の意味を問うてほしい……………28

なぜ日本人は宗教に無知、無分別なのか 32

政治に無関心の私が靖国問題に関心を持ったわけ……………32

解剖体慰霊祭は憲法違反という投書が届く……………35

二百五十年も続く解剖体慰霊祭の意味……………38

国が戦死者を祀るのは加害者だからである……………40

日本と中国の部族性の違いについて 42

私が臨床医ではなく解剖医になった理由……………42

中国の為政者は文化大革命の犠牲者をどう思うのか……………45

靖国参拝は首相の踏み絵として機能している……………48

死者を人と見なさないのは日本の特異な原則……………49

金欲というメタ欲望を抑える方法 52

お金とは可能性への欲望だから際限がない……………52

戦争の背景には漠然とした不安があるはず……………55

平穏な精神は平穏な身体から生まれる……………58

身体という無意識の声が聞こえないのが現代社会……………60

心こそ人類が共有するものである 63

ユダヤ系米国人とイスラエル人という二重構造……………63
相手が国の体をなしていないと人民戦争になる……………67
被害者という理由ですべてを正当化していいのか……………69
人の心がわかる心を教養という……………71

第2章

「学問」のズレについて

「大学へ行くと馬鹿になる」の真の意味 74

学習とは知覚と運動がループする文武両道である……………74
乳幼児に動画を見せるのは学習にあらず……………77
座って勉強しても教養は身につかない……………79
学問は情報を扱い、教育は生きた人間を扱う……………82

カブトムシの角はなぜ大きいのか 84

解剖のいちばん面倒なところとは……………84
議論が長いのは文学部と理学部と経済学部……………85
大学で教えるべきは「知識」より「智慧」である……………87
東大出とはカブトムシの角にすぎない……………90

見つかるものはいずれ見つかる 94

そもそも学問のオリジナリティーとは何か……………94
自分だけのものとは「心」ではなく「身体」である……………96
臓器移植を殺人というのは脳中心主義だから……………98
「メンデルの法則」はメンデルの死後に発見された……………100

どんな情報も意味がなければすぐに消える 105

ダーウインの自然選択説はなぜ生き延びたか……………105
私はすべての統一理論を信用しない……………107

チーターの足が速くなった理由……………	109
一神教は歴史上最も古い統一理論である……………	112

第3章

「教育問題」のズレについて

いまの子どもは教育を受ける動機がない……………116

教育とは水と餌とねぐらを自分で探させること……………	116
安い石油によって世界中で都市化が進行した……………	118
都市は籠の中だから子どもはゆっくり育つ……………	121
若者が働かず遊んでいても怒る理由がない……………	123

教育は教える側の個人的責任……………126

間違った教科書なら教師が訂正すればいい……………	126
--------------------------	-----

教育は中立であるべきである……………137

検定こそ教師の本質的手抜きを奨励している……………	129
倫理とは個人に属するものといった大江健三郎……………	132
歴史問題で右往左往する必要などまったくない……………	134

少子化の根本原因とはなにか……………147

保育園児を虫捕りに連れて行くのが私の趣味に……………	147
多くの人が子どもはいらないと思っ……………	150
自然を消した世界に子どもは存続できない……………	152
子育てについての実証的な研究が欠……………	154

教養とは「身につける」ものである

157

目的のない組織が順送りの人事をする……………	157
人生諸事万端すべて学ぶ基本は反復練習である……………	159
個性があるのは身体で頭にあるのは共通性だ……………	161
「私は個性を持つ」と信じている人に教育の効果はない……………	164

子どもの犯罪は親の責任なのか

167

「親は引き回しのうえ、打ち首」発言の問題点……………	167
高いところで子どもを育てるのは危険である……………	170
戦後の日本は子どもの都合をいっさい無視してきた……………	172
わが貧乏国の資源は子どももしかたないじゃないか……………	174

第4章

「政治」のズレについて

小泉首相の誕生は世間の変質を意味していた

178

日本型の組織はほとんどすべてが派閥である……………	178
東大医学部の選挙で実質的に干された話……………	180
田中眞紀子外相と外務省の衝突はなぜ起きたか……………	182
村という共同体が都市化により「勤め先」に移行した……………	186

「ああすれば、こうなる」が現代政治の元凶

188

都市で取り上げた税金を地方に回すのが常識か……………	188
小泉首相が利益誘導型政治に反対した理由とは……………	191
医師会の問題は診療報酬の議論ばかりするところ……………	193
他人から解答をもらおうとせず自分で考え続けよ……………	196

「国益」も「反米」も「親米」も嫌いだである 198

集団というものをとにかく私は信用しない……………198
爆弾を落とせばテロが終わるとは思えない……………200
「いつの」「だれの」益かを明確にしてもらいたい……………202
人間には誠実な人と不誠実な人がいるだけ……………203

第5章

「外交問題」のズレについて

中国という大国をどう捉えるか 210

不景気を他人のせいにして済むわけではない……………210
中国の近代化による環境問題の影響は大きい……………213
中国が発展しているとき日本は鎖国していた……………216
中国はわれわれの考える国家とは違う……………218

「外務省の利害」と「国の利害」 220

なぜ田中眞紀子外相の更迭が問題化したのか……………220
「今日の仕事は昨日の通り」はまともな仕事ではない……………223
日本の外交は外務官僚の都合優先で決まる……………224
わが国の「衰退」は若者の仕事を老人がやるから……………226

「官僚共同体」が国を誤った 230

瀋陽総領事館の事件については中国に理がある……………230
日本では勇気が死語になったことが証明された……………232
日本共同体は加入者の資格にきわめてやかましい……………234
「オウムは日本人じゃない」とどうしていえるのか……………238

武力行使のない戦争は存在する 241

「相手の用意した食べ物を食べない」の重要な意味……………241
いまの北朝鮮外交は実質的には戦争ではないか……………246

第6章

団塊の世代は戦争を知らないのに攻撃性が高かった……………247
北朝鮮問題自体が戦争の総決算である……………249

私は死ぬまで「たった一人の戦争」を続ける……………251

他の国にもアメリカの大統領を選ぶ権利を……………251
日本がアメリカの州になれば日銀も首相もいらぬ……………252
アメリカ人がまじめなのが迷惑のもとである……………254
アメリカという国家など人の世の約束事に過ぎぬ……………257

「原理主義」のズレについて

原理主義は減びず戦争もやまない……………262

私が「脳化社会」という言葉を創案した理由……………262

世界貿易センタービルは脳化社会の象徴といえる……………266
原理主義とはある面で徹底的な便宜主義である……………268
正義を信じるかぎり戦争はやめられない……………270

テロはアメリカ文明の自作自演……………272

B型肝炎もエイズも旅客数と比例して増加した……………272
世界貿易センタービルは「デス・スター」なのか……………275
テロはアメリカ文明という秩序の破壊を試みた……………278
私がいちばん知りたいことは日本人のホンネ……………280

テロに遭ったらどうするか……………282

喧嘩両成敗はほんとうによく考えた平和政策……………282
なぜ平和主義者は人気がないのか……………284
暴力を理解することがいいことか決めかねている……………286
飛行機が全部落ちれば航空テロも事故もなくなる……………288

戦争もテロも心身症である

293

ソ連のアフガン侵攻はC I A のワナだった可能性 293
アメリカこそ世界最大のテロリスト国家なのか 296
人間は脳という都市と身体という田舎を抱えている 298
現実とは脳が作り出す物語に過ぎない 300

第7章

「環境問題」のズレについて

虫捕りの敵は田舎の舗装道路

304

捨てるような虫をなぜ欲しがるのか 304
いまは天国だが天国には虫があまりいない 307
山奥に道路を作るのが地元の権益になるのか 309
林道を舗装すると森の中にゴミが捨てられる 312

日本の自然のどこがどう豊かなのか

314

もともと本州はいくつもの島に分かれていた 314
マイマイカブリを調べると地方の区分がわかる 316
現代社会は区分を「消す」方向に動いてきた 319
後世に日本列島の自然を書き残す義務がある 321

地球温暖化論は政治でなく科学の問題

324

炭酸ガス排出規制はまさに政治問題 324
馬鹿でもわかるものを科学という 326
現代社会は「ああすれば、こうなる」と考える 329
なぜわれわれは未来を予測できないのか 332

あとがき（中公新書版）

334

あとがき（中公文庫版）

336